地域観光

ほんもの体験フォーラム
徳島で3月18日から
体験型観光で意見交換

事例発表や意見交換を通じて体験型観光のあり方を考える「全国ほんもの体験フォーラム・イン・徳島」が3月18～20日の3日間、徳島県徳島市などで開かれる。「ほんもの体験が日本の未来を拓く」をテーマにしたパネルディスカッションのほか、課題別の研究分科会、徳島県内で実施されているプログラムの体験ツアーなどがある。

04年の長野県・飯田大会を皮切りに毎年開催。徳島大会で8回目を迎える。地元自治体や関係機関でつくる実行委員会が主催、全国ほんもの体験推進連絡協議会（通称・全国ほんもの体験ネットワーク）が共催する。

18日、徳島市のアスティとくしまで開かれる全体フォーラムでは、盲目の歌手、ピアニストで、人権、平和などをテーマにしたコンサートなどで活躍する徳島県出身の北田康広さんが講演する。

全体フォーラムのパネルディスカッションは、コーディネーターが体験教育企画代表の藤澤安良氏。パネラーは、山本精五（全国修学旅行研究協会本部事務局長）、清水伸一（日本旅行西日本営業本部営業推進本部担当部長）、加藤明宏（ニライカナイ代表取締役、沖縄県体験型観光推進協議会理事兼事務局長）、高橋充（南信州観光公社社長）、筒井雅浩（まつうら党交流公社統括マネージャー）、刀根浩志（観光ビジネス総研代表、和歌山ほんまもん体験倶楽部事務局長）、西沢猛（南阿波よくばり体験推進協議会事務局長・牟岐町産業建設課課長補佐）の7氏。

19日の課題別の研究分科会は、美馬市、東みよし町、三好市、美波町、牟岐町、海陽町の6会場で。19日午後からは体験ツアーを実施する。

問い合わせは、実行委員会事務局（徳島県観光企画課内、☎088・621・2340）まで。

沖縄観光でシンポジウム
若年層の誘客探る
リクルート

近年減少した若年層旅行者を再び取り戻そうと沖縄県は12月7日、「これからの若年層の沖縄を考えるシンポジウム」を東京・丸の内のリクルート内アカデミアホールで開いた。リクルートじゃらんリサーチセンターとリクルート沖縄じゃらんが共催した。

第1部では、沖縄県若年層市場開拓事業の検討委員長を務める折戸晴雄・玉川大学経営学部観光経営学科教授が「若年層を取り巻く環境と沖縄旅行促進のための方策」と題して基調講演をした。

折戸・玉川大教授の講演

折戸教授は「通信環境が進化し、ブログ、ツイッターに加え、画像、動画、さらにライブによるツー・ウェイでの楽しみが現実化した。個人が情報を蓄積、発信できる時代が到来し、観光情報は、従来の旅行を楽しむための手段から、旅行の目的の一部へと拡大している」と市場分析を解説。その上で「スマートフォン・ツーリズム」という新概念を提唱した。

同教授はスマートフォン・ツーリズムを「スマートフォンを使い、旅行情報収集や旅行手配（航空券や旅行商品の購入や、宿泊施設の手配など）に利用するだけでなく、旅先での旅行経験を記録、蓄積し、インターネットなどを通じて発信することで、旅行の楽しみの重層化や旅行の反復利用の促進を目指すもの」と定義。遠距離でありながら国内定額通信費が適用される沖縄は、「スマートフォン・ツーリズムを用いた若年層の旅行促進に理想的な目的地」であるとして、スマートフォンを活用した沖縄への若年層誘客を提案した。

第2部では、折戸教授をコーディネーターにパネルディスカッション「これからの若年層の沖縄旅行を考える」を実施した。パネリストとして、永谷亜矢子・東京ガールズコレクション実行委員会チーフプロデューサー、藤井大輔・webR25編集長、吉岡広統・日経エンタテインメント編集長が登壇。若年層の消費行動に詳しい3人が若年層を動かすポイントについて討論した。

首都圏から集客拡大
和歌山県　キャンペーンを展開

和歌山県と和歌山県観光連盟は1月14～31日、首都圏からの集客拡大に向けて、「そろそろ和歌山に行ってみようキャンペーン」を展開する。旅行会社の協力を得て各社の旅行商品を紹介したポスターをJR山手線の1編成（11車両）に掲出して運行させるなどのプロモーションを行う。

JR山手線へのポスター掲出は、JTB、KNT、クラブツーリズム、阪急交通社、JALツアーズ、南海国際旅行の6社の協力を得て実施する。掲出期間は1月16日から31日まで。

キャンペーンのオープニングとして1月14日には東京・六本木で和歌山の魅力を旅行会社の担当者やマスコミに紹介するイベントを開催する。

1月25～28日には、和歌山を知ってもらう公開講座「和歌山てらこや」を東京・八重洲ブックセンターで開く。

この他にも期間中には、新宿伊勢丹で1月26～31日に開催される和歌山フェアなど、和歌山関連イベントが東京都内で多数実施される。

温泉地づくりに新指針
山代温泉　文化の発信など目指す

石川県の山代温泉観光協会はこのほど、山代温泉の目指すビジョンの指針「山代温泉第2次CI（コーポレート・アイデンティティー）プロジェクト」の骨子を発表した。古総湯をシンボルとする山代温泉界隈づくりと温泉文化の発信を目指し、イメージづくりと実体づくりを行う。

瑠璃光を会場に骨子を発表した観光協会の萬谷正幸会長＝写真＝は「15年ほど前にCIを策定し『開湯1300年祭』に取り組んできた。今回、第2次CIの骨子を策定し、当面は4年後の北陸新幹線の金沢延伸に向けて5年後のあるべき姿を考えた」と述べた。

第2次CIでは、これからの時代に求められる変革として、「山代の歴史、伝統の継承」「ホスピタリティの高度化」「温泉情緒と文化の深化」を位置づけた。

また、①山代らしい界隈の整備と、にぎわいの創造②伝統、歴史、温泉文化の継承③自然環境を大切にした、おもてなしの山代づくり――という3つのテーマを挙げ、料理とまち並み整備、イベントによる雰囲気づくりに取り組むほか、史跡や古九谷など歴史や文化の魅力の発信、ホスピタリティの高度化とユニバーサルデザインの進化などに取り組む。

萬谷会長は「09年の新型インフルエンザの影響から回復し、2010年は90万人の観光客が山代温泉を訪れている。5年後には120万人を目指す。観光客を増やすためには、新たな需要を開拓し、インバウンドや教育旅行、ひとり旅、MICEの誘致に取り込んでいきたい」と意欲を示した。

山代温泉では09年に新総湯、2010年は古総湯をオープンさせ、そぞろ歩きができる温泉街の環境整備を進めている。

「江」の舞台に誘客
滋賀県　大河ドラマでPR

NHK大河ドラマ「江～姫たちの戦国」をPRする滋賀県推進協議会のキャラバン隊が12月14日、大阪市の観光経済新聞社関西支社を訪れ、ドラマとともに、舞台である滋賀県の観光の魅力をアピールした＝写真。

同協議会は大河ドラマに合わせて結成された官民一体の協議会。浅井三姉妹をモチーフにした着ぐるみを製作。来年3月末まで、全国都道府県をラッピングカーで回り、宣伝活動を行う。

1月15日～12月4日の期間、滋賀県の長浜市一帯で開かれる「江・浅井三姉妹博覧会」をPR。同博覧会では、「浅井・江のふるさと館」「小谷・黒壁・歴史ドラマ50作館」「長浜館」の3つのパビリオンが開館する。

これに先立つ12月25日には「長浜黒壁・歴史ドラマ50作館」が先行オープンする。

九州機構　JR九州
合同で観光説明会
新幹線開業にらむ

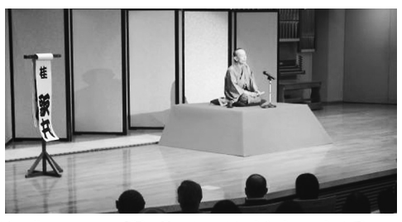
九州観光推進機構とJR九州はこのほど、大阪市のホテルグランヴィア大阪で、旅行会社向けの観光素材説明会を開催した＝写真。11年3月に九州新幹線が全線開業することから、九州新幹線や観光列車、九州島内の鉄道網についても十分に理解してもらえるよう、初めて合同で実施した。

冒頭、同機構の大江英夫本部長は「九州新幹線全線開通で、宿泊客をぜひ増やしてもらいたい。機構としても広域の2次交通を整備している。旅行会社が売りやすく、観光客に満足してもらえる取り組みを行っていく」とあいさつした。

前半は九州の観光魅力やひなまつり、「冬の九州灯りの祭典」の概要を説明。後半は旅行会社と各県との相談会をはさんで、JR九州が九州新幹線と観光列車について説明した。

同機構は05年4月の設立以来、九州7県と合同で毎年、上期と下期に観光素材説明会を開催している。

人気の「温泉らくご」
桂歌丸師匠の特別寄席



歌丸師匠が特別寄席
草津町　観光客ら500人魅了

草津温泉（群馬県草津町）で毎晩開かれている「温泉らくご」。夜の温泉の新たな楽しみ方として定着しつつあるが、13日にはテレビ番組「笑点」の司会でお馴染みの桂歌丸師匠（落語芸術協会会長）の特別寄席が開かれ、町民や観光客ら約500人が聞き入った。

温泉らくごは温泉街の活性化を目的に、昨年12月12日に旅館・ホテルの経営者らが中心となって始めた。場所は草津のシンボル・湯畑そばの「熱の湯」で、年中無休で実施。事務局の大谷正美さん（草津ナウリゾートホテル）は、「観客は1年間で延べ1万3千人に達し、当初予定の1万人を上回った」という。

特別寄席は草津音楽の森コンサートホールで開かれた。寄席を終え、会見した歌丸師匠は「温泉らくごは若手の修行の場ともなる。1年間、若手落語家の面倒を見ていただいた草津温泉にお礼を申し上げるとともに、協会として応援していきたい」と述べた。

業務課長を公募
年俸は720万円
長門市観光協会

山口県長門市の長門市観光協会（香月直樹会長）はこのほど、観光素材の開発、紹介、宣伝や、旅行代理店への観光情報の提供などに業務課長として従事する職員の募集を始めた。組織の抜本的改革の一環として広く全国から意欲ある人材を求め、新組織で手腕を発揮してもらいたい考えだ。

同協会が4月から組織基盤の抜本的改革の一環として「一般社団法人長門市観光コンベンション協会」となるのに伴うもの。雇用期間は4月1日から3月31日。業績により正規職員として継続して雇用する。給与は年棒制で720万円。退職金もある。

応募条件は、観光、旅行業などでおおむね10年以上の実務経験があり、国内旅行業務取り扱い管理者の資格を持っていることなど。

勤務場所は、山口県長門市内の長門市観光コンベンション協会。勤務時間は午前8時30分～午後5時15分で、休日は土・日曜、祝祭日。

応募希望者は、必要書類は、履歴書と、応募の動機、長門市の観光振興をテーマとした1千文字程度の小論文。応募期間は1月31日まで。

問い合わせは協会事務局（☎0837・22・8404）まで。

火災保険を見直してみませんか？
コスト削減
AIU保険 CHARTIS 保険代理店 日昇興産
☎045-663-9321
※全国対応（受付時間）平日9：00～17：00

地域を興す担い手づくり　最前線　㊻
着地型は「旅の産直」

「着地型旅行商品」という言葉で表される集客方法の変化は、農産物の産地直売をイメージすると分かりやすいかもしれない。

これまで農産物を都市住民に届ける方法は、都市主導の大規模卸とスーパーマーケットなどの大規模小売店による大量流通が主流だった。この大量流通に合わせて、農業地では規格化された野菜を大量供給できる体制を作ってきた。ところが、消費者の欲求が高度化、多様化してくると、流通主導で大量生産された農産物に満足できなくなる。本物の味がする農産物や、安心安全な食材がほしいと考える消費者が増えてきた。

このように消費者の好みが高度化、多様化するのに合わせて、農産物の販売ルートも多様化し、さまざまな形態の「産地直売」の方法が開発されている。産直専門の流通事業者の登場や、ネットを通じた販売はもちろん、最近では現地まで買いに行く農産物直売所が各地で盛況となっている。

観光の世界でも同じことが起きている。流通の主役である旅行会社は、スーパーマーケットのような存在である。地域の小さな魅力を味わえる旅は、こうした流通に載せることができなかった。ところが観光客の好みが高度化、多様化して本来の地域の魅力を感じられる旅が求められるようになると、規格化された大量流通型の旅行商品では満足できなくなってくる。

そこで地域から旅行商品を販売するような多様な流通ルートの開発が求められている。さまざまな集客方法を使い、地域の魅力をダイレクトに観光客に届ける

という意味で、着地型旅行商品は「旅の産直」といえる。

スーパーマーケットでも産直野菜の販売ができるように、旅行会社の従来型集客モデルでも着地型旅行商品を販売することは可能である。前回述べたように、旅行会社もさまざまな努力をしながら消費者（観光客）が求める産直商品を扱えるような仕組みを考え出している。ただし、旅行会社頼みではなく、観光客への「産地直売」の方法も重要になる。口コミやチラシでの集客、ネットを通じた誘客に加え、さらには自分たちで「産直所」を作って地域ネタの旅を売ろうとする動きが活発化している。

こうした多様な販売ルートの中から地域にあった集客方法を見つけ、地域の側からプロモーションすることが、「集客の技術」なのである。これによって、地域主導で、地域の魅力を生かした観光が可能になる。

（和歌山大学経済学部、准教授　大澤健）

新春の陶器市に80店舗が出店
茨城・笠間市

茨城県笠間市で1月2～5日、新春の陶器市、第12回彩初窯市が開かれる。会場は笠間工芸の丘特設会場。出展数は約80店舗で、人気の笠間焼作家の作品などが展示、販売される。もちつきの実演、販売なども行われる予定。

あけましておめでとうございます。

[博多]
ホテルニューオータニ博多
[柳川]
御花
[唐津]
唐津シーサイドホテル
[嬉野温泉]
和多屋別荘
嬉野観光ホテル大正屋
萬象閣敷島
[長崎]
稲佐山観光ホテル
矢太樓・矢太樓南館
[雲仙温泉]
九州ホテル
雲仙宮崎旅館
[小浜温泉]
和のやど湯のやど春陽館
[佐世保]
九十九島観光ホテル
[平戸千里ヶ浜温泉]
ホテル蘭風
[平戸温泉]
平戸海上ホテル
[別府温泉]
ホテル白菊
おにやまホテル
悠彩の宿　望海
ホテル別府パストラル
[筋湯温泉]
筋湯観光ホテル九重悠々亭
[湯布院温泉]
由布院ことぶき花の庄
ゆふいんホテル秀峰館
ゆふいん山水館
[熊本水前寺温泉]
熊本グランドホテル佳松園
[杖立温泉]
杖立観光ホテルひぜんや
[阿蘇内牧温泉]
阿蘇プラザホテル望蘇閣
[天草松島温泉]
松島観光ホテル岬亭
[青島温泉]
青島グランドホテル
[鹿児島温泉]
城山観光ホテル
[古里温泉]
ふるさと観光ホテル
[霧島温泉]
霧島山上ホテル
霧島観光ホテル
[指宿温泉]
ホテル秀水園
指宿海上ホテル
指宿シーサイドホテル
[屋久島]
田代別館

除菌装置保有バス会社
福岡　西鉄観光バス
佐賀　マリン観光バス
長崎　長崎ラッキーバス
熊本　九州産交観光
熊本　中九州観光バス
大分　大分交通
大分　日豊観光バス
宮崎　永峰観光バス
鹿児島　さつま交通
鹿児島　南国交通観光
屋久島　まつばんだ交通

九観連　九州観光旅館連絡会　安心してお泊まりいただける九州・沖縄の一流ホテル・旅館の予約センター　http://kyu-kan.net

九観連 KYUSHU RESERVATION CENTER

本部
TEL:06-6531-7101
FAX:06-6531-7283
info@kyu-kan.com
札幌
TEL:011-242-4571
FAX:011-242-4581
sapporo@kyu-kan.com
仙台
TEL:022-266-4426
FAX:022-266-4428
sendai@kyu-kan.com
東京
TEL:03-5298-7001
FAX:03-5298-7002
tokyo@kyu-kan.com
名古屋
TEL:052-582-9131
FAX:052-583-0330
nagoya@kyu-kan.com
北陸
TEL:076-224-1801
FAX:076-222-7299
hokuriku@kyu-kan.com
大阪
TEL:06-6533-1131
FAX:06-6531-1388
osaka@kyu-kan.com
岡山
TEL:086-233-7141
FAX:086-233-7143
okayama@kyu-kan.com
広島
TEL:082-244-2841
FAX:082-244-2844
hirosima@kyu-kan.com
福岡
TEL:092-471-7854
FAX:092-471-7865
fukuoka@kyu-kan.com